

《ヒアリング対象事業(9事業)》

宣言・分野	No.	倍増プラン事業名	平成21年度達成度	平成22年度達成度	平成23年度達成度	
5 健康・安全・安心	食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸を目指します。～元気倍増大作戦～（4年以内）					
	38-1	多目的広場整備方針の決定	外部評価		外部評価	
			b	b-	b-	
			内部評価	内部評価	内部評価	
	38-2	都市公園内のグラウンド等の個人への開放	外部評価		外部評価	
			b	b+	b	
			内部評価	内部評価	内部評価	
38-3	民有地を活用した多目的広場の整備	外部評価		外部評価		
		b	b	b		
		内部評価	内部評価	内部評価		
38-4	(仮称)スポーツふれあい広場の整備	外部評価		外部評価		
		b	b	b+		
		内部評価	内部評価	内部評価		
38-5	大学との連携による多目的広場の整備	外部評価		外部評価		
		b	c	c-		
		内部評価	内部評価	内部評価		
38-6	農業関連施設へのスポーツもできる多目的広場の整備	外部評価		外部評価		
		b	b	b		
		内部評価	内部評価	内部評価		

《ヒアリング対象事業(9事業)》

宣言・分野		No.	倍増プラン事業名	平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度	
6	環境・まちづくり	43	太陽光発電設備の設置を推進します。(4年以内)	外部評価		外部評価		外部評価	
				C		b		b+	
				内部評価		内部評価		内部評価	
			C		b		b+		
		47	新規建設事業費の1%を魅力ある文化・芸術のまちづくりに配分します。(3年以内)	外部評価		外部評価		外部評価	
			C		b-		C		
			内部評価		内部評価		内部評価		
			C		b-		C		
		下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。(4年以内)							
		51-1	都市公園の整備	外部評価		外部評価		外部評価	
				a		a		C	
				内部評価		内部評価		内部評価	
			a		a		C		

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象事業（第3回委員会：6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	38-1	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。 (多目的広場整備方針の決定)	4年以内	・未利用地を活用したスポーツもできる多目的広場の整備に向けて、管理運営手法などに関する研究会を設置し、平成22年6月までに整備方針を決定します。	①協議会の設置 ②協議会の開催(3回) ②多目的広場の開設(5か所)	①②協議会の設置・開設(7月・10月) 協議会にて管理運営団体を審査・市が承認(10団体) ③▼多目的広場の開設(3か所) 実施設計11か所実施	b-	・協議会の設置、開催については、取組内容、数値目標を概ね達成した。 ・広場開設が3か所であるが、1か所着手。 ・平成23年度中において、10団体を管理運営団体として承認し、11か所の実施設計をした。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b-	広場が下回った為。	長野委員	b-	多目的広場の開設数が目標を下回る。「管理運営団体の申請時期が遅かった」と記される2か所について、なぜ、遅くなったのか、純粋に民間側の責任なのか、確認させていただきたい。
河西委員	b	多目的広場開設となると維持のメンテナンスが必要になります。各候補地の人口の増減を見越して計画してください。	橋本委員	b-	内部判断に準じました。
木島委員	c	協議会の設置・開催も重要だが、新設・整備が最終的な目標と考え未達(実績3か所/目標5か所)。	廣瀬委員	b-	開設数が目標を下回ったが、実施設計までの進捗がみられるのでcではなくbの減点と評価した。
栗原委員	c+	広場開設5ヶ所の目標に対して、一部着手はあるものの開設3ヶ所のみ、という進捗から判断しました。	福崎委員	b-	課題、今後の取組内容に具体性が欠ける点。
須藤委員	b-	1. 概ね工程表どおりと判断。 2. 実施設計11か所が広場開設に直結する事を期待。	星野委員	b-	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b-	②多目的広場の開設が目標値を下回ったため。	町田委員	c-	協議会の開催数が予定数を下回っていること、多目的広場の開設数が予定数を下回っていることから目標と比べて遅れがあると判断。2年連続してb-の評価であることよりマイナス評価とする。
高島委員	b-	おおむね工程表どおりに進捗していると判断したが、③が目標に達していないので-とした。	三浦委員	b-	概ね工程通り事業を実施しているが、申請が遅れて開設箇所数が目標を下回った。申請の遅れは行政だけの責任ではないと思うが、円滑に申請できるようなサポートも求められていると想像する。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象事業（第3回委員会：6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	38-2	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。 (都市公園内のグラウンド等の個人への開放)	4年以内	・平成22年度末までに、都市公園内のグラウンド等の運動施設に個人利用ができる開放日を設け、だれもが気軽にスポーツができる機会を増やします。	①有料のグラウンドについては4公園を夏・冬・春休み中に個人開放します。 ②無料のグラウンドについては、12公園を団体利用がない場合は自由に個人利用ができるようになります。	①4公園について、8月2日と3月30日に個人開放しました。 ②13公園について、団体利用がない時間に限り個人利用ができるようになりました。	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判定しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	概ね工程表通りの内容である。なお、可能であれば、冬休み中の個人開放を実施しなかった理由をお示し頂きたい。
河西委員	b	個人開放はプラス評価ですが、日にちが8月3月以外も検討していただきたいです。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。よりアクセスしやすいシステム構築を期待します。
木島委員	b	工程表通り進捗したため。	廣瀬委員	b	年度目標通りの実績
栗原委員	b	—	福崎委員	b-	事業費0の理由が不明な点。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。	星野委員	b	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	グラウンドの個人利用が予定どおり実施されていることで評価。グラウンドとして利用可能な施設には、他に公園、学校など多くの施設がある。これらの施設への一般開放の検討を願う。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象事業（第3回委員会：6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	38-3	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。 (民有地を活用した多目的広場の整備)	4年以内	・平成24年度末までに、民有地を活用したスポーツもできる広場を2か所から4か所以上に増やします。	①民有地情報について市HPを活用し、情報交換の場を設定します。 ②借地公園について1か所整備します。	①情報交換プラットフォームの周知を図りました。 ②北区今羽町96-5に新設した今羽中原公園(借地公園)の一角にのびのび広場を整備しました。	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判定しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの成果である。
河西委員	b-	目標が未達成の見込みなので、プラットフォーム＝駅を連想してしまいます。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。よりアクセスしやすいシステム構築を期待します。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b-	情報交換の場は置かれているが、24年度末までの目的達成に間に合うペースでの進捗とはなっていないので、減点。
栗原委員	b	—	福崎委員	b+	民間からの情報を積極的に用いている点。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。	星野委員	b-	概ね工程表通りの進捗と考えます。但し、市のHPに情報交換の場というものが出来上がったのかが不明。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	目標数値設定が2ヶ所という少ない数値であることに疑問。そもそも、新たな土地の検索より身近な土地(学校校庭・公園)などを利用して市民のコミュニティーの場として活用するほうが効果的と考える。身近な建物施設にも開放の余地はある。それらにも目を向けて積極的な施策としてもらいたいと願う。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象事業（第3回委員会：6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	38-4	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。 （(仮称)スポーツふれあい広場の整備）	4年以内	・平成24年度末までに、公園内の一角にボール遊びなどのスポーツもできる「(仮称)スポーツふれあい広場」を、各区に1か所整備します。	・都市公園内に3か所の「(仮称)スポーツふれあい広場」を整備。	・都市公園内に4か所の「のびのび広場」を整備。	a	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表などを上回る数値となったことから、「a」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	予定を上回った為。	長野委員	b+	単年度目標を1か所上回る整備ができた。
河西委員	b	各区に一箇所といっても、区の広さもずいぶん違いますし、人口密度にもよるので(もちろん利用が見込まれる世代の人口もあります)	橋本委員	b+	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	a	整備数を評価(実績4か所/目標3か所=133%)	廣瀬委員	b+	目標を概ね達成できるペースで若干早い進捗。bの加点と判断。
栗原委員	b+	—	福崎委員	b+	計画を一か所前倒し出来た点。
須藤委員	b+	1.「のびのび広場」の設置数は超過達成だが、質的なレベルアップ等の向上が図られているか不明。	星野委員	a	工程表を上回る成果を上げたと判断します。
高木委員	a	都市公園内に4か所の「のびのび広場」を整備し目標を上回ったため。費用をかけず、子供たちの遊ぶ幅が広がったのが良い。	町田委員	a+	目標に掲げた数値を達成したことで予定どおりと評価します。予算も30万という低予算であることは加点評価
高島委員	b+	工程表どおりに進捗していると判断した。目標を1箇所上回ったので+とした。	三浦委員	a	3ヶ所の目標を上回る4ヶ所を整備した。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象事業（第3回委員会:6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	38-5	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。 (大学との連携による多目的広場の整備)	4年以内	・平成24年度末までに、市内にある大学と連携し、学校施設内の一部を活用したスポーツができる多目的広場を3か所整備します。	・学校施設内一部を活用したスポーツができる多目的広場を整備する。 (2か所)	・★日本大学と広場開設について基本的に合意しましたが、他大学とは協議が整わず、広場の開設にいたりませんでした。	C	・広場の開設に至らなかったため「c」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	協議が整わなかった為。	長野委員	C-	2か所整備するとの目標に対して、日大とは基本合意まで進むが、埼玉大学とは合意が白紙になってしまった。
河西委員	b-	調整をしてぜひ実行を期待します。	橋本委員	C-	法令の変更等がないと事業達成が実現できないのではないかと考える事業。目標の変更等が必須と考えます。
木島委員	C-	単年度目標が未達な上、4年間の目標も未達の見込み。埼玉大学との合意白紙など手法に工夫が見えずマイナス評価。	廣瀬委員	C-	累計3箇所を目指したが最終的に累計1箇所となる見込みであるため。
栗原委員	C-	—	福崎委員	C+	現在協議を進めているところだけにこだわらず、協議対象の大学を拡げて目標の達成に努めようとしている点。
須藤委員	C	1. 難度が高い事業であり、粘り強い協議が必要。	星野委員	C-	目標に達していないため。なぜ未達なのか大学側の理由を含め明確にして欲しい。
高木委員	C	他大学とは協議が整わず、広場の開設に至らなかったため。	町田委員	C+	日本大学との新たな交渉ができたことを評価します。結果的には遅れてはいますが実現に向けて努力している評価とします。運営面での行政の役割と施設管理者側の役割分担が課題と思います。
高島委員	C	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	C-	相手のあることなので、工程通り進まないとしてもしかたないが、昨年度合意した埼玉大学が白紙に戻ったことも含め、この事業は具体的成果が生まれていない。災害時の協力関係も含め、キャンパスを有する大学との連携は重要と考える。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象事業（第3回委員会：6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	38-6	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。 (農業関連施設へのスポーツもできる多目的広場の整備)	4年以内	・平成24年度末までに、3か所の市有農業施設の敷地内にスポーツもできる多目的広場を整備します。	・農業施設の敷地内に多目的広場2か所整備	・農業施設の敷地内に多目的広場2か所整備	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの成果である。
河西委員	b-	農業施設を利用する広場は脚の問題はクリアできたと考えます。	橋本委員	b	整備内容が一部具体的に状況報告されている点。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b+	単年度で工程表の通りだが、もともとの最終目標まで到達したので加点。
栗原委員	b	—	福崎委員	b	整備内容が一部具体的に状況報告されている点。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。	星野委員	b	工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	目標数を満たして多目的広場を整備したことで予定どおりと評価。農業施設を多目的広場とすることで、もともとある農業施設の運営は損なわれないのかが疑問。必要ない施設を所有していたということにはならないか。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象事業（第3回委員会：6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c , d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	43	太陽光発電設備の設置を推進します。	4年以内	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度末までに、太陽光発電設備を設置する市有施設を22施設460kW増やし、太陽光発電能力を170kWから630kWにします。 平成23年度末までに、住宅用太陽光発電設備設置補助を継続し、太陽光発電能力を戸建（4kW）1,375戸に相当する総計5,500kWにします。 	<ul style="list-style-type: none"> ①市有施設2施設に太陽光発電設備を設置 ②小、中学校7校に太陽光発電設備を設置 ③住宅用太陽光発電設備設置への補助を実施（1,500kW） 	<ul style="list-style-type: none"> ①市有施設2施設に太陽光発電設備を設置 ②小、中学校7校に太陽光発電設備を設置 ③△住宅用太陽光発電設備設置への補助を実施（6,362.71kW:1,655件） 	b+	平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断し、より多くの市民が補助を受けられるよう住宅用太陽光発電の補助制度を改善したことから加点評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b+	市民への理解を得られた為。	長野委員	b+	補助単価の見直しや補正予算も組まれることで、住宅用太陽光発電設備設置は予定を上回ることが出来た。
河西委員	b	学校や住宅での設置は耐震性の問題もあり進みにくいところもあるとおもいますが、方向性は決まっています予算もたくさん当てているのだから、成果は当然のこととし、さらに上回ることを目標にしてください。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。予算投入により実現する事業であり、取組内容の大幅な進捗と判断せずb評価にしました。
木島委員	a	住宅用太陽光発電設備への補助増を評価（実績6,362.71kW/目標1,500kW=424%）	廣瀬委員	b+	住宅対象の補助制度の拡充が効果を発揮しているが、もともとは徐々に補助に頼る部分を縮小し、自ずと普及が進む状況を作ること期待した計画であったように思われる。状況の変化により政策の基本的な考え方に転換があったというべきであるが、それが不明確にしか示されていないように思う。
栗原委員	b+	—	福崎委員	a-	40番のように補助金額単価や、補助と自己負担の配分などを記載できる気がするが、されていない点。
須藤委員	b+	1. 太陽光パネル等の太陽光発電設備は価格下落が顕著であり、引き続きコスト削減に取り組まれない。	星野委員	b+	工程表通りの進捗と考えます。また補助金制度の改善は「+」とします。
高木委員	b+	住宅用太陽光発電の補助制度を改善し目標値を上回ったため。環境への意識を向上させるため、発電電力量表示装置を設置し、工夫した点が良い。学習面でも良い教育材料になるため、他の事業（土曜日寺小屋、子ども博物館、シニアユニバーシティなど）との相乗効果も図れると思う。	町田委員	b	自然エネルギー活用という普及啓発事業としての役割りとして大きいものがあると思う。本来の環境配慮とは、従前のライフスタイルを見直しエネルギー使用そのものを見直すことに意味があると個人的には考えている。
高島委員	b+	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	b+	内部評価と同様の判断をする。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第3回委員会:6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度達成度（内部評価）		
						達成度	評価理由	
環境・まちづくり	47	新規建設事業費の1%を魅力ある文化・芸術のまちづくりに配分します。	3年以内	・平成22年度末までに、建設事業費における1%（一般財源ベース）を文化・芸術事業に充てる仕組みをつくります。	①基金設置条例案を9月定例会に上程し、条例を制定します。 ②平成23年度にさいたま市誕生10周年記念事業として新たな文化・芸術事業(フリーカルチャービレッジ、ジュニアソロコンテスト)を実施します。	①★本年度は条例を提出しませんでした。 ②「秋のさい10フリーカルチャービレッジインさいたま新都心」、「ジュニアソロコンテスト」を開催しました。	C	・1%を充当する仕組みが構築できなかったため「c」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	仕組みづくりが予定通りでなかった為。	長野委員	C-	「仕組みの考え方の見直し」と、本政策項目を根本から見直し、検討する作業の年度となった。
河西委員	C-	コンセプトが曖昧。ドームも無いのだから札幌や福岡を目指しても意味が無いです。都心に近いさいたま「市」で取り組むことは何かを検討するべきです。ステキな地方都市なのか、札幌、福岡よりも歴史的伝統文化もあります。	橋本委員	C-	条例制定がなされないと実現しない目標なので、評価は未達よるC評価。迅速な取り組みを期待します。
木島委員	b	プランの「普通建設事業費から特定財源を除いた額の1%の額を文化芸術事業費にあてる」という仕組みは構築できているためb評価。	廣瀬委員	d+	文化・芸術関係の予算増は実現されているが、新規建築事業費の1%という考え方についての合意形成ができなかったといえる。全面的な仕切り直しが必要ではないか。
栗原委員	C	—	福崎委員	C-	いまいち、基金条例の再協議と提出するに至らなかった理由の説明が分からない点。
須藤委員	C	1. 当県の歴史・文化等に根差し、当県のオリジナリティがある文化・芸術活動を助長するような予算措置を講じて欲しい。	星野委員	C	目標に達していないと判断しました。
高木委員	C	目標を達成できなかったため。人々の好奇心を伸ばす「ものづくり」をする点で、他の事業（土曜日寺小屋、子ども博物館、シニアユニバーシティなど）との相乗効果を図れないか。日頃取り組んでいる「ものづくり」をアウトプット出来る環境づくりをすることは、魅力ある文化・芸術のまちづくりにつながり、参加者のモチベーションも向上するのではないか。	町田委員	C	施策はしくみ造りが大切です。文化を文化都市としての施策は魅力あるまちづくりの観点からも興味があるところです。民間や個人ではできない事業であることから行政が力を入れる分野だと考えています。
高島委員	C	条例を提出しなかったの。	三浦委員	d	「新規建設事業費の1%を魅力ある文化・芸術のまちづくりに配分する」という具体的な目標が達成されていない。 財政面の仕組みづくりの施策であったのに、事業だけが新設されているのは、良くない意味で換骨奪胎の感もある。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象事業（第3回委員会：6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	51-1	下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。 (都市公園の整備)	4年以内	・平成24年度末までに、身近な公園（注1）を15か所増やし、身近な公園の不足する地域（注2）を20.3%から13.2%にします。	①身近な公園を6か所整備 ②身近な公園が不足する地域を15.6%とする	①△身近な公園を7箇所整備 ②★身近な公園が不足する地域を16.9%とした。	C	・公園整備箇所数は目標を上回ったことは加点評価するものの、身近な公園が不足する地域は目標を下回るため、「c」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	目標を下回った為。	長野委員	C+	内部評価の判定は概ね妥当と考える。身近な公園が不足する地域の割合解消について、新設公園の立地との関係もあり、一定の努力はされているものと考えた。
河西委員	C-	人口密集地域の公園不足は住宅建設の前からわかっていたこととおもいますが、今現在困難なら公園用の土地確保が難しいとおもいます。	橋本委員	C	内部判断に準じました。
木島委員	C	身近な公園の不足する地域が未達	廣瀬委員	C+	整備箇所数は目標を上回っているが不足地域率が目標に及んでいないので、Cの加点とした。整備数の目標設定と率の達成のギャップが生じる理由を検証する必要があるのではないか。
栗原委員	b	—	福崎委員	b	新規設置数は計画通り伸びている点(%の変化が小さいのは、住民分布等環境の変化のためと思われる)。
須藤委員	C+	1. 身近な公園が不足する地域は目標未達だが、逐年不足比率が減少している点をプラス評価。	星野委員	C	目標に達していないと判断しました。
高木委員	C+	②身近な公園が不足する地域は目標値を1.3%下回ったが、①身近な公園は7か所整備し、目標値を上回ったため加点評価し「c+」とした。公園にソーラー照明を設置しており、環境面も考慮している点が良い。遊ぶ子供たちも身近に学べる「モノ」がるのは良いと思う。	町田委員	C	当初を上回る予定数での整備状況、進捗状況と判断します。行政本来の事業として充実していただきたい分野です。
高島委員	b	おおむね工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	C	内部評価と同様の判断をする。4年間の達成目標を下方修正しているが、その妥当性も含めて評価が必要と思われる。

《ヒアリング対象外事業(16事業)》

宣言・分野	No.	倍増プラン事業名	平成21年度達成度	平成22年度達成度	平成23年度達成度	
5 健康・安全・安心	食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸を目指します。～元気倍増大作戦～（4年以内）					
	37-1	食生活・運動	外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価	
	37-2	介護予防	外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価	
	万全な危機管理体制を構築します。（4年以内）					
	39-1	総合防災情報システムの構築	外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価	
	39-2	危機事案発生時の初動体制の確保	外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価	
	39-3	防災ボランティアコーディネーターの養成と避難場所運営体制の構築	外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価	
	39-4	災害時要援護者への支援	外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価	

《ヒアリング対象外事業(16事業)》

宣言・分野	No.	倍増プラン事業名	平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度		
			外部評価	内部評価	外部評価	内部評価	外部評価	内部評価	
5 健康・安全・安心	39-5	マンホールトイレの整備	外部評価		外部評価		外部評価		
			内部評価	b	内部評価	b	内部評価	b	
	39-7	地域防犯ステーションなどの増設と自主防犯パトロールの促進	外部評価		外部評価		外部評価		
			内部評価	a	内部評価	c	内部評価	b	
	40	民間住宅の耐震化補助事業を拡大します。(すぐ)	外部評価		外部評価		外部評価		
			内部評価	b	内部評価	b-	内部評価	b+	
			外部評価	b	外部評価	b-	外部評価	b	
			6 環境・まちづくり	42	市内照明のLED化率全国1位を目指します。(4年以内)	外部評価		外部評価	
内部評価	b	内部評価				a	内部評価	a	
44	「E-KIZUNA Project」などの実施により、次世代自動車の普及を促進します。(4年以内)	外部評価			外部評価		外部評価		
		内部評価		b	内部評価	c	内部評価	b	
				外部評価	b+	外部評価	c+	外部評価	b
				46	コミュニティバス路線の検討委員会を設置します。(すぐ)	外部評価		外部評価	
内部評価	b	内部評価	b			内部評価	b		
			外部評価	b+	外部評価	b+	外部評価	b	
			50	良好な住環境を守るための「高度地区」による高さ制限を導入します。(4年以内)	外部評価		外部評価		外部評価
内部評価	b	内部評価			b	内部評価	b		
			外部評価	b	外部評価	b	外部評価	b	

《ヒアリング対象外事業(16事業)》

宣言・分野	No.	倍増プラン事業名	平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度	
			外部評価	内部評価	外部評価	内部評価	外部評価	内部評価
6 環境・まちづくり	下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。(4年以内)							
	51-2	暮らしの道路・スマイルロードの整備	外部評価		外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価		内部評価	
	51-3	下水道の整備	外部評価		外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価		内部評価	
	52	効率的な道路ネットワークを構築するため、都市計画道路を抜本的に見直します。(4年以内)	外部評価		外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価		内部評価	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第3回委員会:6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	37-1	食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸を目指します。～元気倍増大作戦～ (食生活・運動)	4年以内	・平成24年までに、健康寿命を男性17.0年、女性19.5年まで伸ばします。 ・平成23年度末までに、食事バランスガイドを知っている人の割合を60%以上とします。 ・平成24年度末までに、意識的に体を動かすなど運動している人の割合を、男性35%以上、女性26%以上とします。	①「いきいき健康づくりグループ」育成教室を全区で継続的に開催 ②健康倍増ガイドブックのウォーキングコース追補版を作成 ③健康フォーラム2011～ウォーキングを始めよう！を10月に開催	①グループ育成教室を全区で開催。継続化、自主化を支援。 ②健康倍増ガイドブック「水と緑のコース編」を10,000部作成・配布 ③健康フォーラム2011 ウォーキングを始めよう!の開催 参加者313人	b	・平成23年度の目標、取組状況等工程どおりに進捗したので「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。
河西委員	b	健康寿命の伸びは大変評価。団塊世代の加入によるなら今後は更なる伸びを期待します。ウォーキングは継続することが意味なので、多数のイベント開催が事業費の増加につながらないように注意して、事業継続に工夫してもらいたいです。
木島委員	a	健康寿命の目標について、既にH22年度で達成したことを評価(実績M17.0年 F19.7年/目標M17.0年 F19.5年)。また食事バランスガイド周知割合達成も評価(実績70.7%/目標60%)。健康寿命の発表が一年遅れで行われるため、単年度目標の成果が図り辛いプランでありながら、最終目標を上回る成果を既に出しているのは大きく評価できる。
栗原委員	b	—
須藤委員	b	1. 工程表の通りの進捗と判断。 2. グループ育成教育の開催数・参加者数に各区でバラツキがあり、工夫が必要。 3. ウォーキング参加者数が多く取組み評価する。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	b	工程表通りの内容と考える。
橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
廣瀬委員	b-	健康寿命そのものは目標を達成しているが、この政策がその成果としてどの程度寄与できているのかについての精査が必要である。
福崎委員	b-	アンケートの数字やイベント参加者数など数値目標に出来そうだが、設定されていない点。
星野委員	b	工程表通りの進捗と考えます。
町田委員	b-	全体的な目標はわかるが、具体的な年度ごとの事業計画の数値的目標が不明。平成23年度に実施予定であった食事バランスガイドの周知割合が7割と報告されているが、自分の家族は誰も知らない。???である。
三浦委員	b	工程通り事業を実施している。 取組指標・方針にある、「平成23年度末までに、食事バランスガイドを知っている人の割合を60%以上とする」とうのは達成されたのか否か、調査しているか?

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第3回委員会：6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	37-2	食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸を目指します。～元氣倍増大作戦～ (介護予防)	4年以内	・平成24年度までに、健康寿命を男性17.0年、女性19.5年まで伸ばします。 ・平成24年度末までに、介護予防特定高齢者施策事業の参加者を1,800人に増やします。 ・平成24年度末までに、介護予防一般高齢者施策事業の参加者を15,000人に増やします。 ・平成24年度末までに、介護予防・生活支援事業（介護予防水中運動教室事業）の参加者を210人に増やします。	①二次予防事業参加者1,600人 ②一次予防事業参加者14,000人 ③介護予防水中運動教室事業参加者190人	①★二次予防事業参加者数1,342人 ②一次予防事業参加者数26,456人 ③★介護予防水中運動教室参加者数155人	C	・平成23年度の二次予防事業参加者が1,341人、同水中運動教室事業参加者については、前年よりも若干の増加はあったものの目標値を下回ったので「c」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C-	目標を下回った為。	長野委員	C	内部評価の判定は妥当と考える。中核的な対象層である二次予防事業参加予定層へのアプローチの前提を変える必要が伸び率からするとあるといえるかもしれない。
河西委員	b	一次予防事業の参加が多いのが評価です。参加率に差が出るのは地域の平均年齢の点かあるいは足の悪さが原因か。もし原因が地域への愛着の無さならば今後 いろんな影響が心配されると思います。(非常時の非難 名簿など。) 事業費をアップさせないよう工夫して継続してください。	橋本委員	C-	二次予防事業への参加者、介護予防水中運動教室事業の未達が続いている。
木島委員	C	二次予防事業参加者、介護予防水中運動教室事業参加者が未達。 二年連続での未達であるが、介護予防水中運動教室の開催されていない区での水中運動事業への参加者(見沼ヘルシーランド1,224人/西楽園463人)を評価し、マイナス評価は見合わせる。	廣瀬委員	C-	単に周知活動の強化ということではない改善策が必要なのではないか。特に水中運動教室については、単体としての効果が期待できるにしても、対象者のそれまでの運動習慣などに照らしても参加促進に限界があるのではないかと。現実的に参加が見込めるメニュー構成へと再検討する必要もあるのではないかと。
栗原委員	C	—	福崎委員	C-	開催区が限定されている以上、対象人口も限定される。開催会場の数は適正に抑えつつも、複数個所でローテーションするなど、参加の機会を増やす工夫がほしい。
須藤委員	C+	1. 二次予防事業、水中運動教育参加者は未達なるも、一次予防事業の大幅超過達成をプラス評価。	星野委員	C-	H22年度から2年連続数値目標を達成していないので、目標達成に改善点が必要と考えます。
高木委員	C+	①二次予防事業参加者と③介護予防水中運動教室事業参加者が目標を下回ったが、②一次予防事業参加者が大幅に上回ったため「c+」とした。	町田委員	C-	2年連続でC評価であり、来年度の予定数を達成するためには相当のテコ入れが必要。
高島委員	C	目標値に達していないのでCとした	三浦委員	C-	過年度より指摘しているが、介護予防の視点から水中運動教室を展開するならば、空白区があるのは問題だと感じる。管理運営が異なるプールでも、同じ目的の事業連携によって、希望する区民が参加しやすい環境整備の工夫が望まれる。また、介護予防の視点からより重視されるべき二次予防事業の参加者が目標を下回るのはよくない。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第3回委員会:6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	39-1	万全な危機管理体制を構築します。 (総合防災情報システムの構築)	4年以内	・平成24年度末までに、災害発生時に迅速で確かな情報の収集と提供を行うため、総合防災情報システムを構築します。	①委託業者の決定 ②基本設計の実施	①総合評価一般方式による入札を実施し、委託業者を決定しました。 ②システム構築に関する基本設計書を作成しました。	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの進捗である。
河西委員	b	早いシステムの完了を期待します。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。より迅速な取り組みを期待します。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	進捗は予定通り。内容面において有効なシステムとして完成することを期待したい。
栗原委員	b	—	福崎委員	b	コスト削減について加点したいが、削減の詳細の報告が無い。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。	星野委員	b	工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	2000万で委託業者が決定したことは予定どおりと評価。地域に住まう人々が安心して生活できるためにも災害時の防災情報は必要。H24年度中に3800を費やして防災システム完了となるのか？この金額で構築できるなら加点評価
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第3回委員会:6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	39-2	万全な危機管理体制を構築します。 (危機事案発生時の初動体制の確保)	4年以内	・危機事案発生時の初動体制の確保を図るため、平成21年9月から職員の宿日直体制を整備します。 ・平成21年度中に、職員の動員を速やかに行う職員参集システムを構築します。	①管理職職員及び宿直専門の再任用職員による2名体制での宿日直を実施 ②職員参集システムの配信試験・訓練を4回実施	①管理職職員及び宿直専門の再任用職員による2名体制での宿日直を実施 ②職員参集システムの配信試験・訓練を4回実施した。	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの内容である。
河西委員	b	災害、テロの想定以外、高齢者の多い地区の避難指示方法など各地区に合った研修を取り入れるよう検討してみてもうでしょう。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。より迅速な取り組みを期待します。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗。慣れによる弛みを生じないよう継続的な取り組みを期待。
栗原委員	b	—	福崎委員	b+	職員の配備だけでなく、研修も重視している点。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。	星野委員	b	工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	緊急の災害時における対策として初動活動の体制づくりをしておくことは重要です。継続して宿直体制をとっていることより予定どおりと評価します。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第3回委員会:6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	39-3	万全な危機管理体制を構築します。 (防災ボランティアコーディネーターの養成と避難場所運営体制の構築)	4年以内	・平成24年度末までに、防災ボランティアコーディネーターを600人、防災士を500人養成します。 ・避難場所の運営体制を構築するため、平成24年度末までに、避難場所運営委員会を公民館を除くすべての避難場所へ設置します。	①防災ボランティアコーディネーター200人、防災士150人を養成する ②避難場所運営委員会を35か所設置する	①防災ボランティアコーディネーター197人、防災士148人を養成 ②☆避難場所運営委員会を56か所設置	a	・平成23年度の避難場所運営委員会の数値目標を大幅に上回って設置したことから「a」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	内容が判断出来ない為。	長野委員	a	避難場所運営委員会の設置数が目標を上回り、また、防災コーディネーターへのフォローアップ研修も用意された。なお、可能であれば、中級編研修、意見交換会参加人数が防災アドバイザー登録数全体に占める割合をお示し頂きたい。
河西委員	b+	努力と工夫は評価できますが、実感や実績がわからないので。ボランティアコーディネーターの必要人数が適当かもよくわかりません。任期や訓練も。	橋本委員	b+	避難場所運営委員会の設置を評価。継続的な取り組みが実現できるよう期待します。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b+	遅れていた避難所運営委員会の設置を、ほぼ当初目標通りの水準に追いつくところまで巻き返した。
栗原委員	a-	—	福崎委員	a+	継続的フォローアップを重視し、コーディネーターの中級編講座やアドバイザー間の交流促進をしている点。
須藤委員	b+	1. 防災ボランティアコーディネーター、防災士の養成に若干未達があり、総合評価はb+に留めた。	星野委員	a-	避難場所運営委員会の数値目標は大幅に上回って達成したが、他が目標数に達していない為「-」としました。
高木委員	a	避難場所運営委員会を56か所設置し、目標値を大幅に上回ったため。	町田委員	b	避難場所運営委員会が大幅な増数であることは評価できる。防災ボランティアコーディネーターの人数は予定を若干下回っている。自主的な防災活動は災害初期の段階での被害拡大を阻止するためにも重要であり、そこに住まう人々の街づくりの視点においても積極的に体制づくりをすべきだと思う
高島委員	b+	工程表どおりに進捗していると判断した。②が目標を上回っているので+とした。	三浦委員	a	避難場所運営委員会の数値目標の遅れを取り戻し目標を大きく上回った。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第3回委員会:6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c , d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	39-4	万全な危機管理体制を構築します。 (災害時要援護者への支援)	4年以内	・平成23年度までに、災害時要援護者への支援を充実するため、「個別避難支援プラン作成マニュアル」を策定します。	・更新した災害時要援護者名簿の配布を行うとともに、日頃の見守り活動や災害時の安否確認・避難誘導等に活用するための「個別避難支援プラン作成マニュアル」を策定する。	・更新した災害時要援護者名簿の配布 ・日頃の見守り活動や災害時の安否確認・避難誘導等に活用するための「個別避難支援プラン作成マニュアル」を策定	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	地域性を考えると一律ではない。	長野委員	b	工程表通りの内容である。
河西委員	b+	プランの合意割合が低い区への説明を急ぎをお願いします。合意がない原因は拒否ですか、無知ですか。いい取り組みだと思っのでプラス。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。より迅速な取り組みを期待します。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗。現場で効果を発揮できるよう避難訓練などの励行を期待したい。
栗原委員	b	—	福崎委員	b-	事業費0の理由が不明な点。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。	星野委員	b	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	具体的な行動マニュアルとして「個別避難支援プラン作成マニュアル」を策定し、高齢者名簿の配布や更新を予定どおり実施したことで予定どおり評価しました。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第3回委員会:6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	39-5	万全な危機管理体制を構築します。 (マンホールトイレの整備)	4年以内	・平成24年度末までに、避難場所である市立小・中・高等学校100校に600基の災害用マンホール型トイレを整備します。	・平成24年3月までに、各区3校、計30校の避難場所に180基設置する。	・平成24年3月までに、各区3校、計30校の避難場所に202基設置した。	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの進捗である。
河西委員	b+	区の広さが違うのでトイレの数はもっと必要では。費用がかかってもメンテナンスを怠らさずお願いします。目標を超えているので+。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗。
栗原委員	b+	—	福崎委員	a+	事業項目の取組だけにこだわらず、災害時のトイレ対策という視点で包括的な計画がされている様子の報告がある点。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。 2. 設置後のメンテナンスも効率的に行う必要がある。	星野委員	a	工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	災害時のトイレと水はなくてはならないもの。平成23年度の予算1億1700万で200基のトイレ設置による安心生活を市民に宣伝していただきたい。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第3回委員会:6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	39-7	万全な危機管理体制を構築します。 (地域防犯ステーションなどの増設と自主防犯パトロールの促進)	4年以内	・平成24年度末までに、安心・安全なまちづくりを推進するため、地域防犯ステーションや公共施設などを利用した防犯パトロール拠点施設を15か所増やし、20か所とします。 ・平成24年度までに、自主防犯活動団体を760団体にします。	①パトロール拠点施設の検討・設置 5か所(累計16か所) ②自主防犯活動団体数 24団体増(累計740団体)	①パトロール拠点施設の検討・設置 4か所(累計15か所) ②自主防犯活動団体数 26団体増(累計742団体)	b	・平成23年度の数値目標等を概ね達成したので、「b」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	概ね工程表通りの成果と考える。
河西委員	b+	犯罪率の低下がなにより成果だと思います。引き続き啓発活動やパトロールを期待。行政からの働きかけもいい緊張になると思うので、手を離さずに呼びかけてください。	橋本委員	b	避難場所運営委員会の設置を評価。継続的な取り組みが実現できるよう期待します。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	概ね工程表通りの進捗。
栗原委員	b	—	福崎委員	b+	廃止交番6か所を防犯ステーションとして施設再利用している点。
須藤委員	b+	1. 市民の市政参画の観点からも有意義な事業。犯罪数減少にも寄与。 2. 少額の助成金を有効活用する等、コストにも留意した点をプラス加点。	星野委員	b-	概ね工程表通りの進捗と考えますが、パトロール拠点施設の検討・設置が未達だったため「-」とします。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	パトロール拠点施設数、自主防犯活動団体数の設置から予定どおりと評価。地域防犯活動を安全面だけでなくそこで住む人々の心豊かさにつながるものにしてほしい
高島委員	b	おおむね工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	c+	パトロール拠点施設の目標が5ヶ所のところ、4ヶ所に留まった(4/5)。 自主防犯活動団体は目標24団体のところ26団体と上回り、担い手団体は目標を上回っているものの、拠点施設の重要性を考え、工程の遅れと評価する。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第3回委員会：6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	40	民間住宅の耐震化補助事業を拡大します。	すぐ	・平成21年度末までに、民間住宅の耐震化を推進するため、耐震化補助事業の見直しを行い、平成22年度から耐震補強等助成事業を拡充します。	(予算措置件数) ① 耐震診断(戸建住宅) 派遣 600棟 補助 10棟 ② // (共同住宅等) 1棟(40戸) ③ 耐震改修(戸建住宅)40棟 ④ // (共同住宅等) 1棟(40戸)	① 耐震診断(戸建住宅) △派遣 776棟 △補助 67棟 ② △ // (共同住宅等) 8棟(82戸) ③ △耐震改修(戸建住宅)48棟 ④ ▼ // (共同住宅等) 1棟(11戸)	b	・①数値目標等、②取組内容、③事業計画に沿って民間住宅の耐震補強等助成事業を予定どおり実施しており、H23年度の実績も概ね目標と同等又は上回っていることから進捗度を「b」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b+	耐震改修を行った共同住宅は想定よりも小さなボリュームのものであるが、減点要素とまでは言えないのではないかと考える。
河西委員	b+	助成金の引き上げは望ましいが古い戸建の個人負担が難しいところ。そういった住宅が多い地区は決まっているだろうし、地震のときの被害の大きいはず。どうしたものか。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	他のプランと評価方法が異なるため、検討が必要。昨年度、既にプラン目標は達成したということで単年度評価が困難であった案件。昨年度同様、プラン目標は達成したということでb評価。本来ならば、昨年度より大幅に増加した実績について、その取り組みを+評価できるが、上記のとおり評価方法が異なるため加点できない。(耐震診断戸建 H23年775棟/H22年34棟、建替戸建 H23年51棟/H22年20棟、耐震シェルター H23年5棟/H22年0棟など)	廣瀬委員	b	概ね工程表通りの進捗だが、昨年の震災を受けての展開として助成率、限度額の引き上げが効果的であったのか。同じ歳出で戸数を増やす選択肢はなかったのか。
栗原委員	b+	—	福崎委員	b+	具体的な補助金単価と、周知方法の詳細の報告がある点(事業費の内訳があればなおよし)。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。	星野委員	b	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b+	目標を上回っており、取組状況で耐震補強等助成事業の拡充に具体性があったため。	町田委員	b	予定数値を大幅に上回る結果より予定どおり進んでいると評価。ただし、助成事業によって実施率を上げることについては少なからずの疑問がある。耐震対策は、原則は個人責任によるもの。耐震対策を施した結果、通風や機能が劣り健康面で問題となる建物になることもままある。
高島委員	b+	工程表どおりに進捗していると判断した。数値が上回っているのと+とした。	三浦委員	b+	耐震診断の派遣、補助棟数の増加は、制度の強化と周知の成果の表れと評価する。共同住宅の目標が下回っているのは、1棟の戸数の問題なので、減点要素とは見ない。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第3回委員会:6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	42	市内照明のLED化率全国1位を目指します。	4年以内	・平成24年度末までに、エネルギー削減効率の高い市有施設のLED化率を10%とします。 ・平成24年度末までに、街路灯について4,000灯のLED化を図ります。	①市有施設3施設のLED化 ②LED街路灯1,000灯設置	①市有施設3施設のLED化 ②☆LED街路灯4,680灯設置	a	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等を大幅に上回って進捗したので、「a」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	目標を上回って達成した為。	長野委員	b+	LED街路灯の設置数が予定を上回る。ただし、平成22年中に議決された平成23年度当初予算の範囲で、LED灯の市場価格下落のため実現できたのであれば、「A」とすることは留保する。市による価格交渉ほかの努力の成果であれば、「A」とする。
河西委員	a	いままでの検討の段階からどんどん実施に移っているので評価。事故やトラブルに気をつけ、コストの削減にも努めて引き続き普及へお願いします。	橋本委員	b+	数値目標の達成は加点評価であるが、予算投入により実現する事業であり、取組内容の大幅な進捗と判断せずb+評価にしました。
木島委員	b	プラン目標(全国No1)の達成が難しいにも関わらず、昨年度の倍近い費用を使って単年度目標を大きく上回るLED設置を行なったとしても評価はできない	廣瀬委員	a-	工程表を大幅に上回っての導入の進捗だが、昨年の事態を受けての全国的な動向のなかでの展開であり、市の独自の努力というだけではなく、また、予算措置によって量的な拡大は容易な施策であるためaから減点とした。
栗原委員	a	—	福崎委員	a	大幅な進捗(具体的な削減額と、市内の業者の活用の有無について報告があればなおよし)。
須藤委員	a	1. 目標の大幅超過達成を評価する。 2. 機材の一括購入、メーカーのコンペ等によるコスト削減を引き続き図られたい。	星野委員	a	数値目標を大幅に上回っていると判断しました。しかしながら、予算的には問題なかったのが疑問点です。
高木委員	a	目標を大きく上回っているため。エネルギー削減の点で環境貢献度が高い事業であるため、もっとこの取組を学生や市民の方々に知ってもらえるようにアプローチ出来れば良い。学習面でも良い教育材料になるため、他の事業(土曜日寺小屋、子ども博物館、シニアユニバーシティなど)との相乗効果も図れると思う。	町田委員	b	LED照明の事業化は環境意識の啓発としては有効と思うが、CO2排出量や環境コストの試算には配慮が必要と考える。
高島委員	a	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a+	街路灯の数値はめざましい。新しい電気料金区分の活用など、時機を得た施策展開をしていると評価する。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第3回委員会:6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	44	「E=KIZUNA Project」などの実施により、次世代自動車の普及を促進します。	4年以内	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度末までに、市域における次世代自動車の台数6,000台を12,000台にします。 平成24年度末までに、市の公用車への次世代自動車の導入率を76.1%にし、平成25年度末には100%にすることを目指します。 上記に加え「E-KIZUNA Project」などの推進により、次世代自動車の普及促進を図り、自動車からのCO2を年間6万トン（さいたま市と同程度の面積の杉林が1年間に吸収する量に相当）削減します。 	<ul style="list-style-type: none"> ①参加自治体及び企業を拡大し、「第2回E-KIZUNAサミット・フォーラム」を開催 ②公用車へ次世代自動車を157台導入 ③EV導入補助制度の対象を個人へ拡大 ④充電器の課金システムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ①11月に開催し、2市2団体増の参加 ②公用車へ157台導入 ③EV導入補助制度の対象を個人を追加(補助件数62台うち個人への補助件数34台) ④充電器の課金認証システム実証実験を実施 ※平成22年3月末で、市域における次世代自動車の台数は14,014台となり、2年前倒しで達成	b	平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	公用車が予定通りと判断	長野委員	b-	概ね工程表通りの内容である。但し、充電器の課金システムは実証実験まで進んでいるが、年次目標にある「構築」へは一歩手前の段階と考えるため、減点とした。
河西委員	b	道路のネットワークと平行して充電器設置を。各区の偏りも出来るだけ少なくなるようにお願いします。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	—
栗原委員	b	—	福崎委員	a	事業計画の前倒しがある点。また、公用車を減らしたことも導入率達成のコスト削減策とみなした。
須藤委員	b	1. 工程表等の通りの進捗と判断。	星野委員	b	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b+	多くの自治体、企業が参加し、社会貢献度が高い事業だと感じた。次世代自動車を普及することで、環境にどのくらい貢献できるのかを示していただくとさらに分かりやすい。展示会やEV教室を低コストで実施し工夫した点を加点评価した。さらに市民の方々と交流する機会を増やし、取組を広めていただきたい。また、人々の好奇心を伸ばす学習面で、他の事業との相乗効果も図れると思う。	町田委員	b	評価。公用車約800台をすべてハイブリッドとするための必要経費が課題。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第3回委員会:6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	46	コミュニティバス路線の検討委員会を設置します。	すぐ	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年8月に、交通空白地域や交通不便地区などの解消に向けた検討を行うため、有識者や市民などを委員とする「コミュニティバス等検討委員会」を設置します。 平成22年度末までに、委員会での検討内容をまとめ、市民に公表します。 	<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインの運用を開始し、コミュニティバスの路線等の検討、乗り合いタクシーの実証運行の実施 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバス等導入ガイドラインを策定（平成22年度の実績） コミュニティバスの路線等の検討を実施 ガイドラインの運用を開始し、実証運行を実施 	b	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度の目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの成果と考える。
河西委員	b	土日の運行も検討していただきたいです。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	—
栗原委員	b	—	福崎委員	b	コミュニティバスのニーズの把握についての状況報告が無い点。
須藤委員	b	1. 需要予測、収支計画が甘くなりがちであり、確実な見積りが必須。	星野委員	b	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	住民の意見を聴く姿勢は評価できる。一方で住民意見がどこまで正当性の根拠として有効なのかが疑問。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第3回委員会:6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	50	良好な住環境を守るための「高度地区」による高さ制限を導入します。	4年以内	・平成24年度末までに、住居系用途地域に高度地区の指定を行います。	①高さ制限を行う地区や高さ制限値の市民意見の調査 ②高度地区指定案の策定	①「高度地区の検討方針(案)」についてパブリックコメントを実施 ②庁内検討委員会や学識経験者へのヒアリングにより指定案を策定	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	ヒアリングのみの為、予定通りとした。	長野委員	b	工程表通りの内容と考える。
河西委員	b-	マンションや戸建の射光の問題などははじめから見通しがついていたことで、後付の説明はまとめるのが難しいのでは。ただ高度地区指定案は賛成です。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	単なる一律の規制ではなく、良好な住環境を守るための都市計画となっていることの検証が必要	廣瀬委員	b	—
栗原委員	b	—	福崎委員	b	高度地区設置に向けた具体的な道筋が書かれている点。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。	星野委員	b	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	当初の計画表から予定どおりと判断。住民ニーズを的確に把握することを重点的に実施してください。住民密着型の行政施策となることを願います。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第3回委員会:6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	51-2	下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。 (暮らしの道路・スマイルロードの整備)	4年以内	・平成24年度末までに、暮らしの道路・スマイルロード整備事業により、生活道路を480件整備します。	①暮らしの道路・スマイルロード120件整備 ②要望受付の公表 ③要望対応状況の公表	①暮らしの道路・スマイルロード127件整備 ②要望受付の公表 ③要望対応状況の公表	b	・数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの進捗と考える。
河西委員	b	道路というのはお金がかかるものだなあと感じます。見積もりや計画が誤らないようおねがいします。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	—
栗原委員	b	—	福崎委員	b	順当に事業が実施されている点。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。 2. 緊急時のリスク軽減、住環境向上の観点から早急な整備が望まれる。	星野委員	b	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	当初予定からの進捗状況判断とします。平成21年度の反省を活かして予定を上回る進捗であることを評価します。住みやすいまちづくりを目指して良好な住環境整備を期待します
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第3回委員会:6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	51-3	下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。 (下水道の整備)	4年以内	・整備計画を1年前倒しし、平成24年度末までに、下水道普及率を90%にします。	①下水道普及率89.0%に整備	事業計画に沿って下水道整備を行い、下水道普及率89.0%を達成しました。	b	・事業計画どおり進捗し平成23年度の数値目標を達成したため、「b」と評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。
河西委員	b	道路と同じく下水道もすごい事業費がかかります。でもその分も「ステキな地方都市」の誇りをもって普及に取り組んでください。
木島委員	b	目標通りの進捗
栗原委員	b	—
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。 2. 多大なコストを要する事業であり、コストパフォーマンスに十分配慮して欲しい。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	b	工程表通りの成果である。
橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
廣瀬委員	b	—
福崎委員	b-	事業費の内訳や、整備の際の工夫など、付加的報告が無い点。
星野委員	b	概ね工程表通りの進捗と考えます。
町田委員	b	予定どおりと判断します。行政にお願いし、充実していただきたい事業です。
三浦委員	b	工程通り事業を実施している。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第3回委員会:6月18日(月)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	52	効率的な道路ネットワークを構築するため、都市計画道路を抜本的に見直します。	4年以内	・平成24年度末までに、人口減少、高齢化社会に対応し、低炭素型のコンパクトなまちづくりを実現する効率的な道路ネットワークを構築するため、都市計画道路の抜本的な見直しを行います。	①道路網計画づくりの指針の策定 ②見直し候補路線の抽出	①平成23年11月に道路網計画づくりの指針を策定しました。 ②道路網計画づくりの指針に基づき、ネットワークの再構築を行い、見直し候補路線を抽出しました。	b	・平成23年度の目標である見直し作業のパブリック・コメントを実施した上でネットワークの再構築を行い、見直し候補路線を抽出したことから「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	見直し状況が解らない為。	長野委員	b	工程表通りの進捗と言える。
河西委員	b	効率的な道路網は災害のときなどにもとても重要に関係してきます。、国、県、地区を越えて検討して理想的な道路網をお願いします。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	当初の工程表に追いついた。
栗原委員	b	—	福崎委員	b+	既存のイベントを用いたとの周知の工夫が記載されている点。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。	星野委員	b	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	住民ヒアリングなどの充実が図れていないため、予定よりも遅れていると判断。道路が生活環境に与える影響は大きいです。住民が理解できるような状況を実施すべきです。計画道路は、一度決定されると経済的な効果にも影響を与えます。慎重なる検討をお願いしたいです。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。